

企業経営にプラス^{plus}するワンポイント情報誌

plus

秋田県商工会連合会報

Akita Prefectural Federation of
Societies of Commerce and Industry

毎月1日発行 発行日/令和3年1月1日
(昭和45年12月3日第3種郵便物認可)

あきたBiz⁺ 1

2021
January
Vol.564

新春座談会
夢にチャレンジする経営者、ビジョンを語る！



(株)妙乃湯
佐藤 貢一郎 氏

福祿寿酒造(株)
渡邊 康衛 氏

Hostel&BarCAMOSIBA
阿部 円香 氏

オイル漬け専門店 Norte Carta
岡本 大介 氏

(株)菅英佃煮本舗
菅原 英信 氏

福祿寿酒造(株)が運営するカフェ「下町醸し室 HIKOBE」にて

令和2年は、新型コロナウイルス感染症（以下「新型コロナ」という。）の影響により「新しい生活様式」が求められるなど、誰もが予想することができなかった激動の一年となりました。

環境やニーズの変化により様々な経営課題に直面した事業者は、その解決に向けた取組はもとより、急速に進展するICTへの対応など、変化を見据えて、創意工夫ある事業活動を行っていかねばなりません。

そのような中で、事業者間連携や経営の多角化、新商品・新サービス開発などに積極的に取り組んでいる方々にお集まりいただき、新春座談会として、今年の目標やビジョン、今後の展望や夢を語っていただきました。

夢に向かってチャレンジし続ける経営者たちの前向きな想いとビジョンは、事業者の皆さまや地域全体にも活力を与えるものです。

新しい年が晴れやかな一年となるように、事業者とともに挑み続ける商工会として、これからも事業者のチャレンジをしっかりとサポートしていきます。

年頭所感

秋田県商工会連合会 会長 村岡 淑郎



令和3年の年頭にあたり、謹んで新年のお祝いを申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症の世界規模での流行により、社会経済活動や日々の生活までが一変した一年でありましたが、このコロナ禍が一日も早く収束の方向に向かうことを切に願ってやみません。

県内企業の景況は、感染症の拡大による経済活動への影響が、国や自治体などによる消費喚起策で一時的に押し上げられたものの、今後その需要の反動減が懸念されるなど、引き続き予断を許さない状況にあります。

このような中であっても、経営者はこのコロナ禍を自社の経営を見つめ直す絶好の機会と捉え、「ピンチをチャンスにする」という前向きな経営意欲を強く持つ必要があります。

こうした認識のもと、県連合会と商工会は「個別企業を徹底してサポートする」ことを最重点方針として「商工会創生プラン」を推進しておりますが、5年計画の最終年となる令和3年は、特に次の3点に力を注ぎたいと考えております。

- 1 「新たな生活様式」に対応した経営を実現するため、ICT活用など具体策を提案します。
- 2 事業承継支援として、計画策定から実現化へ一貫して取り組むほか、承継を契機とした経営革新を促します。
- 3 頻発する自然災害など様々な経営リスクに対応できる計画（BCP）づくりとその実現について支援します。

また、現在、県連合会では次なる10年を見据えた次期プラン策定に着手しており、今年はいよいよ各商工会の独自プランについて議論していただく重要な年になります。

県内21商工会の会長、役員、会員が丸となり英知を結集し、商工会活動の強化につながる次期プランを策定くださいますようお願いいたします。

結びに、商工会員の皆さまや関係各位にとって、新しい年が、新型コロナウイルス感染症を乗り越え「商売繁盛」に弾みをつける飛躍の年となりますようご祈念し、年頭のあいさつといたします。



年頭の ごあいさつ

秋田県知事 佐竹 敬久



新年明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては、健やかに新春をお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症が世界的に流行し、県内経済も大きな影響を受けましたが、そうした中でも、菅義偉氏が本県出身者として初めて内閣総理大臣に就任したほか、ブラウブリッツ秋田がリーグ優勝・J2昇格を決めるなど、県民に勇気と希望をもたらす明るい話題もありました。

県政の推進においては、感染症の拡大防止に向けた対策を講じる一方で、制度融資の拡充による資金繰り支援や、県民向けプレミアム宿泊券・飲食券の発行などを通じて県内経済の早期回復に取り組んでまいりました。

懸案の人口減少問題では、これまでの取組の成果に加え、感染症による県外転出の抑制傾向などから直近1年の社会減が19年ぶりに3千人を割り込みました。また、エネルギー関連では、洋上風力発電や地熱発電の取組が進捗するなど、本県のポテンシャルを生かした事業が動き出しております。

今後は、地方回帰の流れや温暖化防止など、時代の要請を追い風とし得る施策を展開することが重要となることから、DXの推進や首都圏等からの人材誘致、本県の強みを生かした再生可能エネルギー関連産業の振興などに取り組み、最終年度を迎える「第3期ふるさと秋田元気創造プラン」の着実な推進を図ってまいりたいと考えております。

県連合会及び21商工会の皆様におかれましては、地域経済活性化の推進役として一層のご尽力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、新型コロナウイルス感染症が一日も早く収束し、世界に安寧が訪れることを切に望み、新しい年が皆様にとって希望に満ちた飛躍の年となりますようご祈念申し上げ、年頭のごあいさつといたします。



新春座談会 ～ビジョンと夢を持ち、

五城目町の福祿寿酒造株式会社が発酵文化の継承を目的とした拠点として平成30年5月にオープンしたカフェをお借りして新春座談会を開催しました。

令和2年は新型コロナの影響もあり、変化への対応が求められる一年となりました。こうした中であっても、明確なビジョンと夢を持ち、その実現のため事業者間連携や付加価値の創出をキーワードにした取組を積極的に進めている経営者の皆さまから、これからのビジョンや夢などを語っていただきました。

①新型コロナへの対応

司会 昨年は新型コロナの影響によって大変な一年でしたが、宿泊業を営む佐藤さん、阿部さんはどのように対応しましたか。

お客様の変化に対応し、サービス内容を変更

佐藤貢一郎 新型コロナの影響を受けて、マーケットが大きく変わりました。以前は、ほとんど県外や海外からのお客様でしたが、最近は約半分が県内のお客様です。その中で、サービスを変えていくことが必要だと考え、メニュー構成を見直すなどの対応を行いました。

宿泊業が厳しい時は飲食業・小売業に活路を見出す

阿部円香 コロナ禍により、宿泊業の売上が落ち込みましたが、宿泊施設に併設するバーの運営や自社商品の開発・販売などの事業も行っていただけで、事業を継続できました。実家が麹屋なので、発酵食品を使った免疫力を高めるフードメニューを提供できることも強みだと思っています。

②今年取り組みたいこと

司会 今年はどのような年にしたいのか、また、どのようなチャレンジを考えているのか教えてください。

地域や他社との連携が新しい可能性を生み出す！

渡邊康衛 自社のことだけでなく、地域の色々な人たちと一緒に五城目町をPRするイベントなどを計画しています。一人では難しいので、多くの仲間たちと連携していきたいです。

菅原英信 私たちも佃煮製造業者3社が連携してsmelt（スメルト）を結成しました。渡邊さんは、県内の蔵元経営者が集まったNEXT5（ネクストファイブ）のメンバーとして積極的な取組を行っていますが、メンバー間でどの程度まで情報の共有を図っていますか。

渡邊康衛 基本的に隠し事はありません。すべてを共有してこそできる事があります。何よりもお互いを信頼することが大事だと思っています。

菅原英信 すべて包み隠さず共有が図られているのですね。驚きました。smeltでは、メンバー間の製造所視察や商品の共同開発・プロモーション活動を行っています。今年もこの試みを継続していこうと思います。

司会 乳頭温泉郷も旅館同士での連携をされていますよね。どのような取組をされていますか。

佐藤貢一郎 ホームページを開設していない旅館のサポートを行うなど、乳頭温泉郷全体の情報発信力強化に努めています。また、アフターコロナのインバウンドを見据えて、英語での情報発信を行っています。

司会 岡本さんと阿部さんは、農業者との連携により商品を製造していますよね。

岡本大介 地元農家から、しいたけの規格外品が余り、困っているという情報を聞きました。そこで、それを仕入れ、商品を開発しました。私自身、創業して間もなく、実績や信用がなかったため、原材料の確保が難しい時期でしたので、とても助かりました。今ではANA国際線ビジネスクラスの機内食に採用されるほどの商品に成長しました。その経験を生かし、今年も県産品を活用した新たな商品開発を進めていきたいです。

阿部円香 私も、お客様に若手の地元果樹農家の方がいて、そのりんごを使ってハードサイダー「OK,ADAM（オーケーアダム）」を製造しました。りんごの他にも、地元には魅力的な食材が数多くあるので、農家と連携した商品づくりを行ってきたいです。

渡邊康衛 酒づくりの原料となる米は、地元農家と連携し調達しているほか、会社で所有する田んぼで社員がつくっており、9割が五城目町産です。弊社カフェのメニューや商品についても、五城目町産にこだわっており、これからももっと地域全体のブランド力を高めていきたいです。

「付加価値」を高め、稼ぐ力を強化する！

佐藤貢一郎 妙乃湯では、来客数が減る冬季間に部屋の改装工事を進めて、サービス内容を改善することで1室あたりの付加価値を高め、収益を確保できる体制を整えたいと思っています。その中で、需要が変わった時の客層などを考えながら、次は何かが必要なのかを検討しています。また、乳頭温泉郷として、もっとブランド力の向上を図ってきたいです。

渡邊康衛 弊社も商品の生産量は以前の約半分ですが、一白水成のブランドを作り、商品価値を高めたことで、利益率を上げることができました。ただ、味や価格だけでなく、そのお酒が作られた背景やおすすめの飲み方などの情報を提供することが、付加価値として評価されるようになってきたと感じています。

積極的に新たな挑戦を続ける経営者たち〜

岡本大介 (44)



オイル漬け専門店 Norte Carta (ノルテ・カルタ) 代表 (八峰町)。オイル漬け商品の企画製造・販売。独自の視点で県産品を活用した商品開発により、経済産業大臣賞等、様々な賞を受賞。

渡邊康衛 (41)



福祿寿酒造株式会社 代表取締役社長 (五城目町)。16代目蔵元。秋田蔵元集団「NEXT 5」のメンバー。人気銘柄「一白水成」の立ち上げや、発酵文化の継承を目的とした拠点を新設する等、様々な挑戦を実施。

阿部円香 (30)



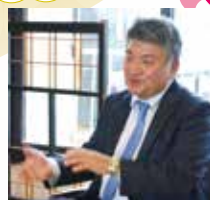
Hostel&Bar CAMOSIBA (カモシバ) 代表 (横手市)。宿泊・飲食業等。実家が創業100年を超える麹屋であるというルーツから発酵バルを併設したゲストハウスをオープン。ハードサイダー「OK.ADAM」を展開。

菅原英信 (43)



株式会社菅原佃煮本舗 代表取締役社長 (潟上市)。佃煮の製造・販売。2020年3月に事業承継。地元佃煮製造業者3社の若手経営者で結成した「smelt」のメンバー。地元食材を使った新商品の開発を推進。

佐藤貢一郎 (54)



株式会社妙乃湯、グローバルプロモーション株式会社 代表取締役 (仙北市)。宿泊業等。乳頭温泉郷のプロモーション活動を主導。湯治文化とおもてなし文化を融合した「Onsen-ryokan」を世界に広めるため尽力。

菅原英信 私は、佃煮の製造と販売を行っていますが考え方は似ていて、ただ販売するのではなく、一番美味しい状態で商品を提供するために飲食店を立ち上げたいという想いがあります。

岡本大介 皆さんのおっしゃるとおり、ブランド力の向上はとても大事なことだと思います。私は、価格が多少高くてもニッチな層にターゲットを絞って、尖っていくつもりだと思っています。

司会 販売戦略をしっかりと持つことやお客様に向けてその商品の食べ方や飲み方、商品の工夫などを発信することが大事ですね。

新しいビジョンを実現するには、土台づくりが不可欠!

岡本大介 急激に受注が伸びてきているので、現在のところ製造委託で対応しています。このたび、弊社の「いぶりがつことチーズのオイル漬」が全国商工会連合会主催のbuyer's room (バイヤーズルーム) で経済産業大臣賞を受賞したことで、受注がさらに増える見込みとなり、製造能力の強化が課題です。

佐藤貢一郎 全て製造工程を委託し、商品開発に特化しても良いのではないのでしょうか。

岡本大介 製造委託だけでは急激な受注の伸びに対応できないため、少なくとも新商品の開発と製造は新しく立ち上げた自社工場で行い、徐々に自社工場での生産力増強に切り替えていきたいです。

司会 阿部さんも、先ほどご紹介いただいた自社ブランド商品については、製造委託をされていますよね。

阿部円香 そうです。製造委託の体制で、先ほどご紹介したハードサイダーを含め、これまで7商品を展開してきました。その中で、ハードサイダーのファンも増えてきましたので、この流れに乗って、今年は法人化と必要な資金調達を実現して自社醸造所を立ち上げたいです。

渡邊康衛 醸造所を作りたい気持ちが伝わってきます。日本酒醸造と設備が同じ部分もありますし、ノウハウもあるので、できることがあればご協力します。

司会 五城目町も横手市もリノベーションを活用した店舗展開など、事業者の工夫ある取組が増えていますね。

渡邊康衛 ここのカフェも元々はタンス屋でしたが、リノベーションを行い、地域の新しい拠点となるような店舗づ

くりを目指し取り組みました。

阿部円香 横手市も歴史ある蔵や建物が多いので、リノベーションを行うなど既存のものを活用して事業の基盤を整えていきたいです。

③ 将来の展望やビジョン

司会 県連合会と県内21商工会では、10年先を見据えた「商工会創生プラン」を策定し、推進しています。皆さまの将来の展望やビジョンを教えてください。

八峰町に新たな雇用を生み出したい

岡本大介 事業が急激に拡大しているため、供給などの体制をしっかり整備していきたいです。その後、新商品開発や自社工場の整備などを進め、八峰町で事業を拡大することで新たな雇用を生み出していきたいです。

八郎潟地域の食文化を全国に発信したい

菅原英信 長年培った佃煮製造の技術を通じて、八郎潟地域の食文化を多くの人々に紹介したいです。オールシーズン提供できる商品を開発することや、品質の良いものを高く売ること、地域経済や従業員にも還元できればと思っています。

ぶれない酒づくりの継続と地域の魅力を発信

渡邊康衛 世の中が大きく変化する中でも、自分たちのこだわった酒づくりを続けることで新しいお客様を創造していきたいです。最近、五城目町で酒づくりをして良かったと改めて強く感じています。その点も含めて地域を巻き込んで五城目町のPR活動もしていきたいです。

将来は旅館業ではないかもしれない

佐藤貢一郎 インターネットを活用した取引や、クリーニングや食品加工場など、旅館業に関係性のある分野への進出に興味を持っています。事業者や地域内のお手伝いをしながら、新たなビジネスを展開できるようにしたいです。

十文字エリアのファンを増やしたい

阿部円香 秋田に戻り起業してから5年が経ち、一緒に並走したいと思うたくさんの人たちと出会うことができました。地元の農業や、まだまだ馴染みのないハードサイダーなど新しいものも発信しつつ、自社醸造所の稼働も含めて、十文字というエリアのファンを増やしていきたいです。

司会 皆さま、元気と夢のあるお話をありがとうございました。

次期商工会創生プランの「基本的な考え方」を決定!

10年先を見据え県連合会と県内21商工会が一体となって策定を進めている次期商工会創生プランの「基本的な考え方」について、商工会創生プラン策定委員会での検討を経て、理事会において承認されましたので、紹介します。

◆プランの意義と役割

(1) プランの意義

- ・商工会及び県連合会が進むべき道を示す羅針盤
- ・商工会と県連合会が一体となって取り組むためのより所
- ・これからの時代にふさわしい商工会DNAを作り上げる設計図

(2) プランの役割

- ・商工会・県連合会の将来ビジョン実現に向けた取組工程表
- ・プランを基本とする政策体系の構築
- ・商工会等に対する理解を深め共に取り組むためのツール

◆プラン策定に当たっての基本認識

(1) 今後想定される社会経済情勢の変化への対応

- ・減少に歯止めがかからない人口と生産年齢人口への対応
- ・加速する事業者数の減少と経営者の高齢化への対応
- ・これまで以上に急速に進むICTへの対応
- ・コロナを契機に変化する経済、社会への対応
- ・企業実態に即した実効あるリスク管理対策の強化

(2) 新たな可能性を切り拓く取組の強化を重視

- ・事業者間連携や1次産業者との連携による新たな事業展開の促進
- ・挑戦を続ける企業づくりと経営革新の促進
- ・若年者や女性によるベンチャー型起業の促進
- ・地域の資源や強みを活用した取組の促進

(3) 地域経済をリードする足腰の強い商工会の構築

- ・地域経済の活性化につながる独自事業の展開
- ・自立(律)的な運営に向けた人材、財政、組織の強化
- ・事業者視点からみた商工会活動の点検と結果反映

次期プランの策定にあたっては、会員・事業者の皆さまから広く意見を頂戴し、一緒につくり上げていきます。
ご意見・ご要望等をぜひ最寄りの商工会にお知らせください!!

次期商工会創生プランの詳細は県連合会ホームページをご覧ください。
<http://www.skr-akita.or.jp/>



◆プラン推進の基本姿勢

(1) 21商工会と県連合会の連携による一体的な推進

- ・共通の旗印を掲げての一体的な推進
- ・商工会、県連合会それぞれの強みを活かした連携の実施

(2) 事業者の視点に立った成果重視の取組の徹底

- ・事業者個々に対する商工会活動の「見える化」の実施
- ・事業者視点による成果目標の設定と成果の把握

(3) 社会経済情勢の変化に対する迅速かつ柔軟な取組

- ・外部専門家の意見を取り入れた施策・事業の企画
- ・戦略・施策・事業評価結果を踏まえた事業計画への反映
- ・プランの点検による環境変化への対応

(4) 地域実態を踏まえた創意工夫による商工会活動の展開

- ・地域の実情を踏まえた独自の戦略を重視
- ・共通する課題は共通戦略として推進

(5) 行政及び関係団体との連携の強化

- ・役割分担を明確にしたパートナーシップに基づく連携をさらに強化するほか、商工会単独では解決が難しい課題については関係団体とチームを組み対応

◆プランの進行管理

(1) 評価制度を活用した進行管理の徹底

- ・評価制度に基づき工程表等を点検し進捗状況の把握や課題の抽出を行い、その評価結果を公表するとともに、監査の対象とするほか、理事会や総(代)会に報告しチェックを受けるなど進行管理を徹底

(2) 年度途中における取組状況の点検

- ・環境変化にきめ細かく対応した取組を進めるため、年度途中の取組状況について、中間監査等の対象とするとともに、理事会に報告し今後の対応策を決定するなど、推進途中での点検を強化

◆プランの推進期間

令和4年度から令和8年度までの「5年間」とする

広告

万が一の時に備え、
従業員やご家族を
守ります



どちらも月々
2,000円
から

あなたも家族もまるごと守る! 頼れる補償の

商工会の福祉共済
全国商工会会員福祉共済



※この紙は再生紙を使用しています。

発行所／秋田県商工会連合会 〒010-0923 秋田市旭北錦町1番47号秋田県商工会館内 電話／018-863-8491(代)
購読料／1部10円(会費に含む)